

式辞

春の光がやわらかく校庭を照らし、桜の花びらが穏やかに舞う今日の佳き日に、多数の御来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和八年度愛媛県立松山南高等学校全日制課程の入学式を挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました360名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは今、南高での生活に、高い志とともに、言い知れぬ不安やプレッシャーを感じていることでしょう。

まずは、その緊張を肯定してください。松山南高校は、皆さんのその「心地よいプレッシャー」を成長のエネルギーへと変える、多様な学びと真剣な出会いの場です。

さて、南高生としての第一歩を踏み出す皆さんに、あえて今日、お伝えしたいことがあります。それは、「高校時代の失敗は、未来を支える不可欠な伏線である」ということです。

私自身、高校時代の部活動でチームの勝敗を左右する大切な試合で緊張に負け、本来の力をかけらも出せずに敗北した苦い経験があります。本当に苦い思い出です。当時はただの挫折にしか思えませんでした。しかし後に教員という立場になったとき、その経験は、本番に臨む生徒たちの緊張や不安に寄り添うための大切な視点を与えてくれるための、得難い「贈り物」であったと知りました。

失敗は、その瞬間だけを捉えると「負の点」に見えます。しかし、挑戦を続ける限り、その点はやがて、思いがけない場面で、未来の自分や誰かを支える「確かな線」へとつながります。

そしてこの「過去の痛みは、いつか必ず意味が変わる」という心構えこそが、困難をしなやかに乗り越える力、すなわちレジリエンスの核となります。

『論語』に、「過ちて改めざる、是を過ちと謂う」という言葉があります。

失敗そのものは問題ではありません。そこから何を学び、自分の人生という物語の中でどう生かすか。その問いかけこそが、これからの正解のない時代を生き抜く「知性」となります。

松山南高校は、皆さんの挑戦と、そこから生まれる小さな失敗を温かく見守り、支える場所でありたいと願っています。そして、その挑戦を導く指針が、皆さんのすぐ近くにあります。

「自らを律せよ」

それが本校の校訓です。

創立以来135年目を迎え、数多の輝かしい歴史を誇る本校ですが、先輩たちもこの言葉を胸に刻みながら高校生活を送りました。

自らの意志で自分を整え、より良い方向へと歩み続けること。これは、不確実な未来において本当の自由を獲得するための、最も高潔で知的な態度です。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。

これまで新入生の皆さんを支えてこられた深い愛情に心から敬意を表しますとともに、皆さま方の本日の感慨も一入のこととお喜び申し上げます。私たち教職員一同、全ての新入生を心から歓迎するとともに、大切な生徒をお預かりする責任の重さを改めて感じているところでございます。私たちは、生徒たちを全力で応援し、また鍛えてまいります。そして、卒業の際には、変化が激しく予測が難しい時代にあっても、不測の事態に動じることなく自らの発想と力で課題を乗り越え、社会の良き創り手として貢献できるたくましい若者として、皆さまのもとへお返ししようと思っております。どうか、本校の教育活動にご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

それでは、新入生の皆さんが南高で過ごす毎日が、それぞれの個性や才能を存分に伸ばし、ひとまわり大きな人間へと成長する日々となることを心から願い、式辞といたします。

令和8年4月8日

愛媛県立松山南高等学校長 島瀬 省吾